

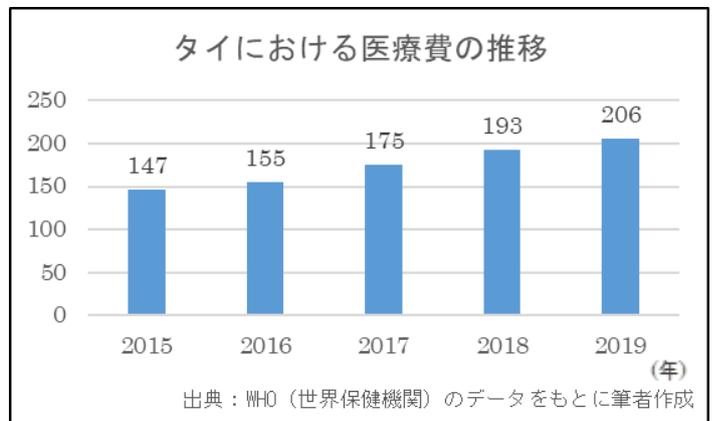
(件名)タイの医療・介護市場とヘルスケア産業について

今回はタイの医療・介護市場と、近年タイで需要が高まっているヘルスケア産業について紹介します。ASEAN地域は開発途上国が多いことから若者が多いイメージを持っている方も多いと思いますが、国連の「世界人口予測2019」によると、2022年時点におけるタイの65歳以上の人口割合は14.2%となっており、日本よりも速いスピードで高齢化が進んでいます。このような背景もあり、タイでは昨今ヘルスケア産業について注目が高まっています。

1 タイの医療市場について

都市部と地方の貧富の差が大きいタイでは、医療サービスのレベルも地域により大きく異なりますが、主要都市にある大きな病院の医療水準は高く、特にバンコク都内では日本と変わらないレベルの医療サービスが提供されています。またコロナ前は欧米諸国を中心に、タイで高度医療や美容整形、性転換手術等の医療サービスを受けることを目的としたメディカルツーリズムも多くあったため、バンコクにはさまざまな言語に対応した私立病院があります。

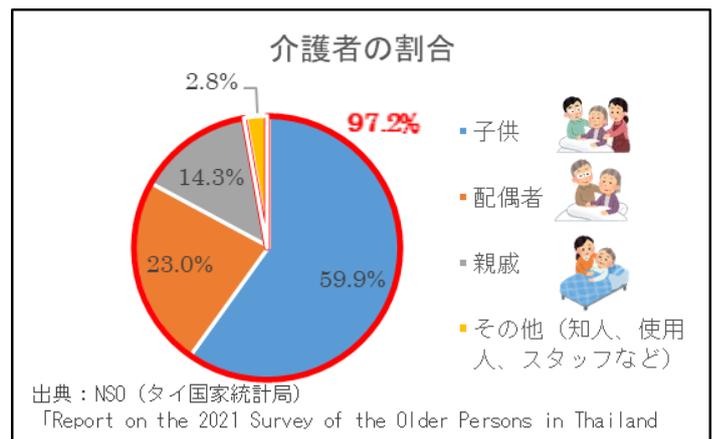
WHO（世界保健機関）のデータによるとタイの医療費は右表のとおり年々増加しており、2019年には200億ドル以上の市場規模になっています。喫緊では、更なる高齢者人口の増加に加え、新型コロナウイルスの流行により医療分野の市場規模はますます拡大しており、今後も拡大傾向は続くものと思われます。



2 タイの介護市場について

タイでは、親を敬う仏教の道德観から高齢者の介護は主に親族で行うことが多く、高齢者を介護施設に預ける行為は道德に反するとみなされることも少なくありません。そのため高齢者向け介護施設は、身寄りがない人や死期が近い人のための施設といったネガティブなイメージが根強くあります。実際にNSO（タイ国家統計局）が2021年にタイ全土で実施した調査では、右表のとおり、介護者のうち約97.2%は介護を必要とする高齢者の親族となっています。

しかしながら、前述したとおりタイは高齢者の割合が年々増えているため、介護分野の潜在的なニーズが高まっていることは間違いありません。上記のような文化的な背景がありながらも、大規模な病院を中心に、一部の高所得者や外国人高齢者をターゲットとし介護事業へ取り組むケースが徐々に増えています。文化的な背景以外にも介護人材不足の問題など課題は多くありますが、タイの介護市場は日本企業にとってまだまだこれからチャンスがありそうな市場とも言えます。



3 ヘルスケア産業について

超高齢社会の日本はヘルスケア産業において課題先進国であり、上記のような医療・介護市場があるタイは、日本のヘルスケア事業者にとって、今まで培ってきたノウハウなどを活かすことができる機会が多い有望な市場であると考えられます。ヘルスケア産業はタイ政府が推進する経済政策の重点分野のひとつに掲げられており、全く別の分野のタイ企業がヘルスケア分野に進出するケースも少なくありません。国外からの進出企業には税制上の恩典を設けるなど積極的に支援しており、今後ますます大きな広がりを見せることが予想されます。

実際に、日タイ企業双方の経済交流の支援を目的として、先日タイと日本の政府機関が共催した「第21回Otagai Forum」では、ヘルスケア分野に取り組むタイ企業を中心に紹介されており、タイ政府としてヘルスケア産業を今以上に推進していくという方針がうかがえます。



「第21回Otagai Forum」で紹介されたタイ企業の医療・介護器具の開発の取組例。
左は日本向け介護ベッドの開発、右はコロナ用防護服の開発。

また意外かもしれませんが、タイはASEAN諸国の中でも特に「肥満化」が進んでいる国のひとつであり、WHOの統計によると2016年時点では18歳以上の成人のうち10人に1人が肥満（BMI30以上）となっています。そのため、昨今タイの富裕層を中心に健康志向が高まっており、日本で広く知られている「青汁」のような健康食品やサプリメントの需要が拡大しています。Ketoと呼ばれる糖質制限されたダイエット食品も増えており、コンビニやスーパーなどでもよく見かけるようになってきました。

このようにヘルスケア産業の動きは、タイでの一般生活においてもかなり身近なものになっており、医療・介護分野を含め今までヘルスケア産業に携わってきた道内事業者の知見やノウハウがこれからタイで活かされる可能性も少なくないと思われます。タイへの進出をすでに検討している、または今後検討したい方は国際経済課までご相談ください。